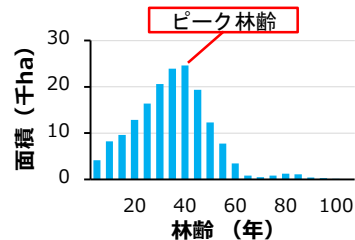


アカエゾマツ人工林の施業指針を改定しました

森林研究本部

背景・目的

- アカエゾマツ人工林は林齢（植えてからの経過年）が40年程度に資源量のピークがあり、今後の利用可能な資源量の増加が予想されている。
- 現在の施業指針※1は林齢40年以上の人工林が少なかった頃に作られており、現状への対応が難しくなっていた。またトドマツ、カラマツ、アカエゾマツ、道南スギの道内の主要人工林樹種のうち、アカエゾマツだけ全道対応の収穫予測システムがなかった。
- そこでアカエゾマツ人工林の収穫予測ソフトと新しい施業指針等をまとめた解説書の作成を目指した。



エゾマツ類の林齢構成 (H27)

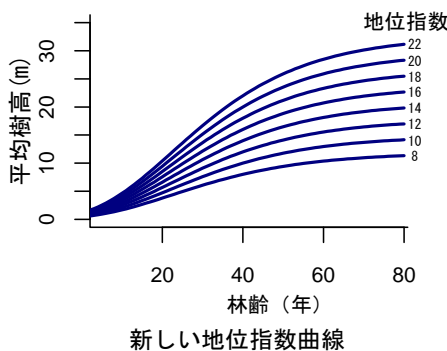
<用語の解説>

※1 施業指針：適切に森林を育てていくために必要な植栽や間伐などの管理方法を示したガイドライン。

成果

森林管理者が自由にアカエゾマツ人工林の施業体系をシミュレートできるソフトを開発

- 調査データを80年生の人工林にまで拡充することで、林齢と樹高の関係を地位指数※2ごとに表した地位指数曲線の精度が向上し、従来よりも人工林の成長量を正確に予測できるようになった。
- これらに基づき、現在の調査データを入力するだけで、間伐※3適期を自動で推奨する収穫予測ソフト（Excelファイル）を開発した。
- このソフトを用いた複数のパターンの施業指針やアカエゾマツに関する最新のトピックをまとめた解説書「アカエゾマツ人工林施業の手引」を作成した。



<用語の解説>

- ※2 地位指数：その土地の成長のしやすさの指標で、ここでは40年生時の樹高を用いている。
- ※3 間伐：育成の過程において、混みあいの解消などを目的に木を適宜間引くこと。

収穫予測ソフトの入力画面

成果の活用

アカエゾマツ人工林施業指針を冊子体やPDFで広く提供し、現場で活用

- 「アカエゾマツ人工林施業の手引」は、冊子体のほか、ホームページからダウンロードも可能。すでに道内の普及組織、登録林業事業者をはじめ、幅広く利用されている。
- 人工林管理の現場や北海道による地域森林計画の策定等に活用されている。
- 普及済のカラマツ、トドマツ、道南スギ収穫予測ソフトとあわせて、北海道の主要造林樹種すべてを網羅する、統合収穫予測システムへの発展が可能になった。



新しい「手引」

問い合わせ先：森林研究本部 林業試験場 森林経営部 経営グループ (TEL:0126-63-4164)